

教育は循環する

青柳 敦子（山形県立長井高等学校長）

1. プラットフォーム会議の魅力

教職の魅力創造プラットフォーム会議に参加させていただいて4年目となりました。初年度から参加していますが、何回来ても心が躍る会議です。何故かという、構成メンバーが、大学、教育行政、学校のみならず、学びの主体である高校生や大学生も含まれており、それぞれの生の声を聞くことができ、毎回、新鮮な気づきがあるからです。まさに会議自体が「学びの場」になっているのです。こんな会議は他にはありません。

さらには、ここで出された意見やアイデアを起点として、新しい取組が次々と展開されています。今年度から始まった山形大学と県教育センターのコラボ事業「学校マネジメント講座」もそうですし、「学びカフェ」の導入を中心とした「教員研修の高度化に資するモデル開発事業」も年度の途中から新たにスタートしました。

会議に参加することで、教職の魅力創造とその広がりにも貢献できる、そんな魅力がここにはあります。だから楽しい！

2. 教育は循環する

教職の魅力創造プロジェクトは、(1)小学校教員体験セミナー(2)学びのフォーラム(3)聞き書きプロジェクトの3つの事業で構成されています。

特に(1)「小学校教員体験セミナー」では、これまで山形市内の高校・小学校に限定されていたものが、今年度、長井高校と長井小学校を新たに加えていただきました。本当にありがたく、感謝申し上げます。その様子を紹介します。

6月に「小学校教員体験セミナー」の呼びかけをすると本校の1, 2年次生22名が、すぐに手を挙げてくれました。8月に山形大学で事前オリエンテーションがあり、森田先生から「学びとは何か？授業で何を見てくればいいのか？」についての講義をいただき、10月16日に長井小学校に行き、授業を参観しました。最初の時間は、何をしていたかわからず、児童との距離感を模索しながら教室の後ろの方でじっと様子を見ていただけでした。20分間の休憩時間中に、児童から誘われて一緒にかけっこをしたり遊んだりすることでぐっと距離が縮まり、次の時間は、困り感のありそうな児童に自分から近づいていって学習のサポートしていました。授業が終わると、子供たちが名残惜しそうに本校生の周りに集まって「また来てね。」と言葉をかけてくれていました。授業前には不安そうにしていた生徒たちが、授業後には自信に満ちあふれた表情に変わっていました。わずか2コマの授業での生徒の変容を目の当たりにして、非常に驚きました。

「教える」「学ぶ」という行為には不思議な魅力があります。その一端を体験できた生徒は、その魅力を追求したくなかったはずですが、そして小学生の中には「高校生になったら、こうやって小学校に来ることができる」と楽しみに考えてくれる子もいました。

教育は循環します。その貴重な起点を作ってくれるのが、このプロジェクトです。

「面白くなければ、つまらない。」佐伯胖先生のことば通り、ワクワクがどんどん広がり、教職の魅力が力強く循環していくことを期待します。